令和６年度　岡山県立勝山高等学校
第１回学校運営協議会　及び　学校関係者評価委員会

日時：令和６年５月２８日（火）
１５：００～１６：４５
場所：会議室

１　校長挨拶
〇委員を依頼するにあたっての根拠についての説明
地域と学校を結び付けて学校を活性化させていくことが目的。
〇生徒の状況説明
生徒数は年々減少傾向。
中学校別では大佐、久米、蒜山からは入学者数が増加、久世からは減少。
〇令和６年度学校経営計画書
小学校との連携の強化を新たな重点取組として挙げた。

２　出席者紹介

３　学校運営協議会について
(1)岡山県立学校における学校運営協議会の設置について
(2)岡山県立勝山高等学校における運営協議会について

４　学校関係者評価委員会について

５　会長選出
委員からの立候補がなかったため、事務局からの推薦により森年雅子氏に決定した。

７　協議
(1)部会の設置について
魅力的な学校づくりと効果的な広報活動を検討する「企画・広報部会」、幅広い学力層に対応する教育課程の編成を検討する「学校教育部会」を設置。
(2)令和５年度の教育活動について
国公立大学合格 25 名、就職 10 名程度の進学実績。
部活動成績や地域連携については校誌「鼓山」を参照。
海外交流については、今年度も２名来校する予定。
(3)令和５年度学校評価書について
(4)令和６年度学校経営計画等について
教務課
勝山高校ＤＸ化により、これまで手書きで行っていた業務の負担を軽減し、教育活動の充実につなげる。また、オープンスクールでは熱中症の恐れから部活動体験ができず、部活動のＰＲが不十分であったため、今年度は 10 月開催の勝山高校説明会にて部活動体験を企画する。

進路課
学習習慣の確立に向けては、学習時間とともに学習の質の充実を目指す。学力向上に向けては、新科目「情報」等の対応も見据える。
年次団
面談の充実に取り組み、細やかな進路指導を行う。
生徒課
昨年度までは部活動の入部率を目標としていたが、近年ダンスなどの習い事に取り組む生徒もおり、部活動の在り方も多様化している。これを受けて、今年度は退部者数の減少を目標に設定した。
厚生課
地域との連携を図りながら、心身の健康づくりに努める。
(5)令和６年度の主な事業等について
夢現プロジェクトや学校設定科目「表現実践」における講師及び校外研修などの費用を想定している。「さるサミット」とは、神庭の滝での大阪大学教授や院生との共同活動であり、小学生との交流も行う。真庭市からの援助も頂きながら、東進衛星予備校との連携（資料 p.32 参照）も行う予定。
(6)令和７年度入学生について
選択科目として、「データサイエンスとＡＩ活用」を設置予定。
コース制の設置（人文Ⅰ、人文Ⅱ、自然Ⅰ、自然Ⅱ）により、幅広い学力層に対応。
また、今年度より全国募集を開始。

８　意見交換
委員Ａ　様
令和７年度入学生の教育課程は決定か。中学生にはどの程度の情報まで伝えているのか。

教務課長
コース制については中学生にも伝えている。教育課程の細部は県教委と調整中のため、すべては伝えていない。

委員Ａ
新見市役所の調査によると、新見市内の中学生は、学びたい学科やしたい部活がないことを理由に市内の高校を選択しない場合がある。勝山高校の近隣にある中学校のニーズ把握やその課題対応についてはどこが主体となって行うのか。

副校長
昨年度校内に設置した委員会で調査を行ったが、中学生のニーズや本校の課題を明確には把握できなかった。今年度設置する部会がその主体になればと考えている。

委員Ｂ
生徒課の目標である部活動途中退部者を抑えるための具体的なアプローチについて、よ

り検討してほしい。

委員Ｃ
学校経営計画に挙げた小学校との連携について、各課の重点取り組みとの関連性はどのようなものか。

副校長
遷喬小学校でのジョブシャドーイングやさるサミット、わんぱくキッズなどを通して小学生との交流を図る予定。

委員Ｄ
国公立大学受験における一般入試と、総合型選抜や学校推薦型選抜の比率について、勝山高校は今後どのような方向性で指導を進めるのか。

進路課長
総合型選抜や学校推薦型選抜で合格する生徒の方が実態として多い。今後もそちらに比重を置く可能性が高い。

委員Ｄ
総合型選抜や学校推薦型選抜に比重を置くなら、年齢の低いうちから地元でのフィールドワークなどを通して課題意識を持たせるべきである。大学も総合推薦を重視する傾向にあるため、早い時期から進路意識を持たせることが大切。また、全国募集で県外から来る生徒は、生活面などを地域で支えていくことが必要。

委員Ｂ
自分も勝山高校入学当初は進学希望だったが、校外の活動を通して意識が変わった。また、高校では社会に出たときに生きる力を付けさせることも大切。例えば礼儀や作法を身につけることなど、社会人に求められる基本的な力は高校で付けさせるべきである。

委員Ｅ
課題を解決することも大切だが、学校の良いところを伸ばすことも同様に大切である。

委員Ｆ
学校が生き抜くためには、その学校の特色を出すことが必要である。地域の力を借りながら部活動ができればよい。

委員Ａ
中学生を無理やり地元に留めようとすることも良くない。広域から入学する生徒を受け入れていく姿勢が必要。また、今年度から冷暖房費が県費負担となり、ＰＴＡがこれまで冷暖房費として積み立てたお金については、使い道が決まっていないが、部活動や施設改修に活かせたらよいのではないか。ＰＴＡだけで検討するのは難しいため、校内でも検討してほしい。

委員Ｇ
勝山高校の魅力をどう周知していくかが今後の課題。現場の教員の中にも、「このようなことができたら勝山高校は人気が出るのに」という思いを抱えている人がいるのではないか。学校や地域を含めた大人たちが生き生きと活動する姿を子どもたちに見せられるとよい。

委員Ｃ
勝山高校生は、「勝山高校を楽しい」とは言うものの、具体的に何が楽しいかを語れない。高校に入って変容した自分を意識化できるように育てられるとよい。地域も学校と一緒に子供を育てる意識をもって今後も取り組んでいきたい。

９　その他
(1)第２回学校運営協議会について
(2)その他